

その3

をご紹介してきました これまでに木質壁パネル同士や壁と床との接合部 ないことにこだわり、様々な対策を行っています。 だからこそ施工する際、建物に極力隙間をつくら 必要不可欠だと、スウェーデンハウスは考えます。 気密性能の高さは、快適で健康的な暮らしには

します。実はコンセントを取り付ける場所は 気密性能に大きく関わるのです。そもそも高い 今回はまず、生活に身近なコンセントに注目

するためには、外周に面した壁(以降、外壁という) 性能を確 保

> 暮らしに欠かせないものなので、し などのことですが、これらは日々の快適な 穴とは窓、ドア、コンセント、スイッチ、配管 に穴を開けないことがベスト。ここでいう 対策が 取 られた穴であること つかり

が重要です

取り付ける場合には、コンセント器具の外側に に設けるという設計基準がありますが、外壁に を決めていく際、可能な限り外壁ではなく内壁できない。 スウェーデンハウスでは、コンセントの場所 ・を使用

密性能を確保します(図参照)。

を防水気密テープで留め付けます。これで を採用し、フランジ部分と透湿防水シ 貫通する円筒型ダクトの外側部分にフランジ です。これは、キッチンと、ユニットバス (円筒の周囲に付くツバ) 付きアダプター もう一つ、オリジナルの給排気ダクトについて の換気扇に使用します。外壁を

の両方を確保します (図参照)。

を追求し続けます スウェーデンハウスは、これからも気密性能 ことを、スウェーデンハウスは信じています 積み重ねることが、快適な暮らしにつながる このような、他にはない細かい施工方法を

外壁を貫通するダクト処理 貫通する給排気ダクト には、フランジ (円筒の周 付いているツバ) 付きのア ーを採用。フランジ部

分と透湿防水シートを防水気

ープで留め付けて、

気密性を確保し

防水

ンジ



24

防水気密ラ